



## 1 令和6年度 決算見込【資料2 p2~10】

実質収支は972百万円の赤字であるが、令和5年度比で825百万円の改善

### 《形式収支差引》

R5年度：147百万円  
R6年度：72百万円

### 《実質収支差引》

R5年度：▲1,797百万円  
R6年度：▲972百万円

[単位：百万円]

	当初予算 ①	補正予算 ②	現計予算 ③=①+②	決算見込 ④	差引額 ⑤=④-③	執行率 ⑥=④÷③
歳入合計(A)	38,926	▲1,400	37,526	36,739	▲787	97.90%
歳出合計(B)	38,926	▲1,400	37,526	36,667	▲859	97.71%
収支差額[(A)-(B)]	0	0	0	72		
基金繰入金及び繰越金を除く収支	▲1,532	39	▲1,493	▲972		

## 3 粗い将来推計(更新)【資料2 p19~22】

被保険者数等の更新に伴い令和8年度以降の実質赤字見込額が微増したが粗い将来推計に大きな変更は生じなかった

### 《被保険者数の更新状況》

年度	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
更新前	75,472人	72,683人	70,403人	68,476人	66,967人	65,811人	64,875人
更新後	75,593人	72,532人	70,266人	68,518人	67,153人	66,194人	65,383人
差引	121人	▲151人	▲137人	42人	186人	383人	508人

### 《実質赤字見込額の更新状況》

年度	R8	R9	R10	R11	R12
更新前	1,115,576千円	840,781千円	628,931千円	354,459千円	67,745千円
更新後	1,118,432千円	851,335千円	645,788千円	376,859千円	93,918千円
差引	2,856千円	10,554千円	16,857千円	22,400千円	26,173千円

## 2 保険料改定の状況【資料2 p10~17】

標準保険料との乖離幅は、令和6年度決算見込と比較して2,733円改善

年度	一人当たり標準保険料 ①	一人当たり保険料 ②	乖離額 ③=②-①
R5年度(決算)	128,884円	100,350円	▲28,534円
R6年度(決算見込)	133,745円	111,369円	▲22,376円
R7年度(本算定)	137,434円	117,791円	▲19,643円

### 《ポイント》

- R6年度決算(見込)における一人当たり保険料は、所得増によって予算時点の見込額を上回り、標準保険料との乖離はR5年度比で6,158円改善した。
- R7年度本算定時点における標準保険料との乖離は、見込みどおり約2万円となった。
- 一人当たり所得はR6年度比で約2.4万円(1.6%)増加  
(R6:1,464,607円 ⇒ R7:1,488,352円)

## 4 子ども・子育て支援金制度【資料2 p23~25】

### 《制度概要》

「こども未来戦略」(令和5年12月22日閣議決定)において、子ども・子育て政策の拡充が図られることとなり、この施策に必要な費用を賄うため、令和8年度から現状の保険料と合わせて「子ども・子育て支援金」を徴収し、国に納付することとなった。

### 《ポイント》

- これまでの保険料(医療分・後期支援分・介護分)に加えて、令和8年度から新たに「子ども・子育て支援金分」の賦課・徴収を開始
- 子どもがいる世帯の拠出額が増えないように18歳以下の均等割は10割軽減
- 千葉県は、本支援金について2方式での県内統一を進める意向

子ども・子育て支援金分の賦課方式は2方式とする方向で進めたい  
(令和8年第1回定例会(3月)で上程予定)